

第130回:ポスト・プーチンは

ちょっと前までは講演会やセミナーの講師を頼まれれば、統計データやグラフをこき交ぜた分厚い論文のような資料を用意したもので、作る方も大変だったが読まれる方も大変だったと思う。最近では会社説明会でも財テク講演会でもIT技術のおかげで、パワーポイントやプロジェクターを活用したスタイルが主流となっている。パワーポイントやPDFと聞けば難解なハイテク技術のような印象を受けるが、子供のころ夢中になって見ていた紙芝居を思い出せばよい。紙芝居に文章は似合わない。写真やグラフを多用してビジュアルインパクトに訴求する説明が基本である。

仕事柄、講演といえば中国に関連するテーマが多く、中国の金融や経済を語る際に欠かせない仕掛けが中国地図である。日本と比べて面積で26倍、人口で10倍もあるこの大国を分析するとき、日米欧各国との比較は重要だが、中国国内の沿岸部と内陸部、北部と南部といった対比も重要である。だから中国全土を省市自治区で色分けした地図を用意しては、スクリーンに映し出し「1980年代に広東省を中心とする珠江経済圏が成立し、90年代には上海から揚子江を遡る長江経済圏が形成された。今世紀に入ってから、天津を中心とする環渤海湾経済圏が…」てな調子で講演を切り出すことにしている。

その中国地図を眺める都度、中露両国の領土問題に因る地政学リスクを直感する場所が東北部である。中国大陸東部は全て沿岸部として太平洋に接しているが、北の黒龍江省の東側だけは海ではなく、ロシアの細長い回廊がハバロフスクからウラジオストクに向かって南下し、その南端は北朝鮮北部まで食い込んでいる。北朝鮮の核兵器開発問題を解決するため6カ国協議という近隣国と米国による外交会議が置かれているが、この問題を巡る中露両国の複雑怪奇な政治的駆け引きは、中朝露三カ国の国境問題とも密接にリンクしている。ロシア帝国は17世紀にピョートル1世が康熙帝とネルチンスク条約を結び、両国の国境線を定めたが、19世紀に入るとロシアは衰退した清帝国の窮状につけ込み璦琿条約や北京条約の締結を迫り、冬でも使用できる不凍港をかつぱらったのである。

20世紀に入り、第一次世界大戦のさなかに共産主義革命が勃発し、ロシア帝国は倒れ、レーニンを首班とするソビエトが誕生する。そのソ連の支援により約30年後の1949年に中華人民共和国が成立することになるが、建国当初の中国とソ連とは、子分と親分の関係にあり、この中ソ蜜月時代には、約4300キロに及ぶ中ソ国境線に特に大きな問題はなかった。

ところが1953年にスターリンが死去し、後継者のフルシチョフがスターリン批判を行ってから、中ソ関係が悪化し始めた。粗野に加えてハゲにデブ、体格までよく似ているフルシチョフと毛沢東は私の強い独裁者である点までそっくりで、ウマが合わなかったのか、ブタが合わなかったのか、何れにしてもそりが合わなかったのは間違いない。文化大革命のさなかの1969年には、黒龍江省の珍宝島(ダマンスキー島)や新疆ウイグル自治区等の各地で、中規模や小規模の国境紛争が何度か発生している。

当時アメリカとの対立に危機意識を抱いていた毛沢東はフルシチョフに向かって原爆の製造技術の供与を求め、フルシチョフが拒否すると、「わが国は核戦争を恐れない。たとえ3億人が核戦争で死んでも、中国

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

人は未だ3億人も残っている」と啖呵を切り、フルシチョフは震え上がったと云う。だからこんなアネクドートが人口に膾炙するのである。

フルシチョフ書記長の執務室に秘書官が駆け込んできた。

「書記長同志、非常事態です。赤の広場で数万人の兵隊が晝飯を食っています。」

「落ち着きなさい。赤軍の規律は大事だが、たまには許してやりなさい。若い兵隊が腹を空かせているのだらう。ところで彼らは何を食っているのかね」

「書記長同志、兵隊が何を食っているかは問題ではありません。奴ら全員が四角い箱を広げ、箸を使って米の飯を食っているのです」

中国人が日本人を嫌っているのは周知の事実であり、近年多発する反日暴動を見れば明らかであるが、それでは中国人がロシア人や朝鮮人が好きかといえどもとんでもない。特に旧ソ連は毛沢東が発動した無謀な大躍進政策が失敗し、経済がほとんど破綻状態となった中国に対し経済援助打ち切りを通告し、数万人のロシア人技術者を引き上げた。それに追い打ちを掛けるようにソ連は中国に対し従前の経済借款の返済を迫り、その結果中国で数千万人の餓死者を出す大惨事が発生した。食い物の恨みは恐ろしいと云うが、中国が最も苦しかった1960年頃のみじさを覚えている人たちは今でもロシア人が許せないのである。

中国人とジョークを交わすとき、外交儀礼として中国を批判するジョークは避けるべきである。胡錦濤や温家宝を俎上に載せるのは失礼だ。中国人にも人気が悪く、既に引退した江沢民なら多少は許されるかな。歴史上の人物である毛沢東ジョークは内容次第だ。中国に対し最も無難なジョークは隣国のロシアや朝鮮を揶揄するジョークである。最後にこないだ中国の友人が爆笑したジョークを紹介する。

100年前、ロシア帝国の(影の)指導者は、ラスプーチンだった。

いま、ロシア連邦の指導者は、プーチンだ。

100年後、ロシアの指導者は、チン(陳)だらう。

根拠ゼロ与太話だが、ひょっとしたら・・・という気がしないでもない。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成24年7月25日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%(税込み)(約定代金が260,869円以下の場合、3,150円(税込み))の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大0.8400%(税込み)の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%(税込み)の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%(税込み)(約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円(税込み))の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3